

平成23年度 公立豊岡病院組合の改革プラン取り組みに関する評価報告書

平成25年1月

公立豊岡病院組合改革プラン評価委員会（以下、委員会）は、公立病院改革ガイドラインに遵い公立豊岡病院組合（以下、病院組合）の各病院ならびに組合全体の業務実績について以下の通り評価を行った。

〈評価方法〉

改革プラン（経営計画）の各項目の進捗状況について、病院組合から提出された資料ならびに改革プランの進捗状況に関する病院組合側の自己評価を踏まえつつ、評価委員個々が総合的評価を行い、その上で、評価委員会の総意を取りまとめる形で最終評価を導いた。

また、改革ガイドラインにおいては病院ごとに改革プランを策定することを求めており病院組合もそれに則り病院ごとにプランを策定しているところであるが、委員会においては、病院組合に所属する個々の病院の計画進捗状況に留意しつつも、病院組合は一つの組織であるという観点から病院組合全体の経営に重きを置いた。

さらにいうと、公立病院改革ガイドラインの目指すところは収支の改善にあるが、本委員会においてはそれだけにとどまらず、収支改善にいたるためのプロセスや、公立病院として行うべき医療にまで踏み込んで評価の対象とした。

〈評価委員〉

委員長	谷田 一久	豊岡病院組合経営顧問
副委員長	舟木 宏	豊岡市医師会長
委員	足立 秀	朝来市医師会長
委員	立花 正敬	税理士
委員	村田 正次	豊岡市区長連合会長
委員	森下 恒夫	朝来市連合区長会会長
委員	友田 多佐子	豊岡市女性連絡協議会長
委員	上田 利幸	豊岡市健康福祉部長
委員	岡 和彦	朝来市健康福祉部部長

〈評価結果〉

・ 総評

公立病院改革ガイドラインの意図するところは収支の改善であり、その点においては平成22年度に引き続き計画を大きく上回って達成されている実績が示された。ただし、ドクターヘリの本格運用や二病院の統合など、計画時とは異なる経営環境となっていること、また、平成26年度から公営企業の会計基準が変更されることから、今後、それらの状況を踏まえて計画の修正が必要であるとの意見が付された。

改革プランの必須項目である経常収支比率、職員給与費比率、病床利用率の三指標については、平成23年度実績において経常収支比率は96.3%で計画を前倒しでほぼ達成（平成26年度の計画96.4%、平成23年度計画は92.9%）、職員給与費比率は52.0%で同前倒しでほぼ達成（平成29年度の計画51.3%、平成23年度計画は55.7%）、病床利用率は79.3%で本年度計画78.2%を上回る実績となった。このうち、病床利用率については、高次の急性期病院において短期集中的な医療の提供が求められる昨今の情勢や、医療従事者の充足に困難を要するという目標達成に向けてはマイナスの要因も前年に引き続き存在するなか計画を達成しているものである。本委員会は、地域医療を支えつつも、上記のような計画達成状況を示した病院組合全体の取組みを高く評価するものである。

・ 領域別評価

病院組合は収支改善を目指しながらも、地域医療の維持向上を図るという病院組合本来の目的を達成するため、①医師確保対策、②収入向上対策、③医療機能向上対策、④経費削減対策、⑤経営意識向上対策、⑥広報及び連携対策の6領域にわたる具体的な取組みを策定しているところであり、各領域の評価は次のとおりである。

<①医師確保対策>

医師確保対策としての具体的な取組み4項目中、“医師のキャリアアップ支援”については、専門医や認定医の資格取得の助成や所属学会の会費助成の制度を設けてはいるものの、その制度が利用された件数は昨年度と同水準にとどまっており、制度利用の促進がまだまだ十分ではないとの判断から、評価を“△”とし、今後の制度利用の拡大による医師のキャリアアップを図ることが期された。“医師奨学資金貸与・医学生の確保、定着促進”他2項目については、概ね計画通りの取組みがなされたとして評価を“○”とした。

<②収入向上対策>

平成23年度は、前年に引き続き計画を大きく上回って収入は確保された（対計画：入院収益106.7%、外来収益108.5%）。具体的な取組み5項目については、前年度不十分であると評価した“未収金の発生率の抑制及び未収金の回収率の向上”は改善されたが、“有料広告の募集”についての活動が不十分であると評価した。他の4項目については計画通りの取組みがなされたとして評価を“○”とした。

<③医療機能向上対策>

“病診連携・病病連携の強化促進”は但馬地域における医療提供体制において高次機能を担当する当組合にとって重要なテーマであるが、紹介率は計画値49.3%および前年値42.1%をともに下回り34.8%の実績となった。一方、逆紹介率は計画値27.6%および前年値28.6%を上回る30.0%であった。また、“7：1看護の効率的な運営推進”については、7：1看護の要件を満たすだけの看護師数を確保できなかったことから、10：1看護の運用を選択せざるをえない状況にある。看護師の確保については引き続き取組みを強化して計画の達成に近づくことを期待するところである。

本領域については、5項目中、3項目が“△”評価となった。他の項目については計画通り取組みがなされたとして評価を“○”とした。

<④経費削減対策>

平成22年度は、経費削減対策として計画されている6項目については、すべての項目について計画は達成されたが、本年度は、“後発薬品の利用率の向上促進”の項目が、前年値(=計画値)を下回った。がんの化学療法が増加により、高額な先発品を必要としたという理由は明確であるが、計画に達しなかったということで“△”評価とした。他の5項目は計画を達成している。

<⑤経営意識向上対策>

職員の経営意識向上対策として“BSCの推進と情報共有化”と“全職員での経営改善への取組み(ワンコイン作戦)”の2項目が計画されている。前者についてはその取組みが著しく遅れているために“×”と評価し、後者については職員発の提案や職員を巻き込んだ意識向上策の取組みが十分とはいえないことから“△”の評価とした。二期連続の“×”および“△”評価である。BSCについては看護部で導入が図られていることから、その動きが全体に広がることを期待する。

<⑥広報及び連携対策>

病院組合内部で対応可能な“ホームページの充実”は実施されたが、外部の媒体を用いる広報活動については不十分であるとの評価結果となった。病院組合は公の機関であるから広報活動による情報の提供を一層充実させていただきたい。出来ることなら、広報活動を通じて、住民の受診行動の変容を期待したいところである。

以上

1. 平成23年度 決算の状況 (収益的収支:総括)

(単位:百万円、%)

区分		年度		23年度計画 と決算の差 B-A	23年度計画と 決算の比較 $B \div A \times 100$ (%)	病院組合の 自己評価	委員会 評価
		23年度計画 A	23年度決算 B				
収 入	1 入院収益 (a)	9,690	10,337	647	106.7		
	2 外来収益 (b)	4,585	4,977	392	108.5		
	3 その他医業収益 (c)	784	794	10	101.3		
	4 他会計負担金	1,358	1,489	131	109.6		
	5 国(県)補助金	77	306	229	397.4		
	6 その他	61	78	17	127.9		
	経常収益 (A)	16,555	17,981	1,426	108.6		
支 出	1 職員給与費 (d)	8,383	8,377	-6	99.9		
	2 材料費	3,683	3,946	263	107.1		
	3 経費	3,051	3,388	337	111.0		
	4 減価償却費	1,163	1,209	46	104.0		
	5 支払利息	422	420	-2	99.5		
	6 その他	1,116	1,325	209	118.7		
	経常費用 (B)	17,818	18,665	847	104.8		
経常収支 (A)-(B)		-1,263	-684	579	54.2		
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		92.9	96.3	3.4	103.6	○	○
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{(a)+(b)+(c)} \times 100$		55.7	52.0	-3.7	107.1	○	○
病床利用率		78.2	79.3	1.1	101.4	○	○

1. 平成23年度 決算の状況 (収益的収支:豊岡病院)

(単位:百万円、%)

区分		年度		23年度計画 と決算の差 B-A	23年度計画と 決算の比較 B÷A×100(%)	病院組合の 自己評価	委員会 評価
		23年度計画 A	23年度決算 B				
収 入	1 入院収益 (a)	7,128	7,850	722	110.1		
	2 外来収益 (b)	2,524	2,937	413	116.4		
	3 その他医業収益 (c)	540	568	28	105.2		
	4 他会計負担金	766	814	48	106.3		
	5 国(県)補助金	77	305	228	396.1		
	6 その他	49	61	12	124.5		
	経常収益 (A)	11,084	12,535	1,451	113.1		
支 出	1 職員給与費 (d)	5,406	5,662	256	104.7		
	2 材料費	2,629	2,936	307	111.7		
	3 経費	2,013	2,376	363	118.0		
	4 減価償却費	856	896	40	104.7		
	5 支払利息	350	351	1	100.3		
	6 その他	719	839	120	116.7		
	経常費用 (B)	11,973	13,060	1,087	109.1		
経常収支 (A)-(B)		-889	-525	364	59.1		
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		92.6	96.0	3.4	103.7	○	○
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{(a)+(b)+(c)} \times 100$		53.0	49.9	-3.1	106.3	○	○
病床利用率		88.8	87.6	-1.2	98.6	△	△

1. 平成23年度 決算の状況(収益的収支:日高医療センター)

(単位:百万円、%)

年度		年度		23年度計画 と決算の差 B-A	23年度計画 と決算の比較 B÷A×100 (%)	病院組合の 自己評価	委員会 評価
		23年度計画 A	23年度決算 B				
区分							
収 入	1 入院収益(a)	1,015	1,030	15	101.5		
	2 外来収益(b)	1,134	1,239	105	109.3		
	3 その他医業収益(c)	103	94	-9	91.3		
	4 他会計負担金	106	105	-1	99.1		
	5 国(県)補助金		1	1			
	6 その他	5	7	2	140.0		
	経常収益(A)	2,363	2,476	113	104.8		
支 出	1 職員給与費(d)	1,269	1,108	-161	87.3		
	2 材料費	473	473	0	100.0		
	3 経費	459	460	1	100.2		
	4 減価償却費	122	124	2	101.6		
	5 支払利息	27	26	-1	96.3		
	6 その他	163	198	35	121.5		
	経常費用(B)	2,513	2,389	-124	95.1		
経常収支(A)-(B)		-150	87	237	-58.0		
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		94.0	103.6	9.6	110.2	○	○
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{(a)+(b)+(c)} \times 100$		56.3	46.9	-9.4	120.1	○	○
病床利用率		54.7	74.6	19.9	136.4	○	○

1. 平成23年度 決算の状況(収益的収支:出石医療センター)

(単位:百万円、%)

年度		年度				病院組合の 自己評価	委員会 評価
		23年度計画 A	23年度決算 B	23年度計画 と決算の差 B-A	23年度計画と 決算の比較 $B \div A \times 100$ (%)		
区分							
収 入	1 入院収益(a)	319	323	4	101.3		
	2 外来収益(b)	185	171	-14	92.4		
	3 その他医業収益(c)	57	56	-1	98.2		
	4 他会計負担金	240	218	-22	90.8		
	5 国(県)補助金						
	6 その他	2	3	1	150.0		
	経常収益(A)	803	771	-32	96.0		
支 出	1 職員給与費(d)	403	408	5	101.2		
	2 材料費	80	78	-2	97.5		
	3 経費	167	149	-18	89.2		
	4 減価償却費	69	68	-1	98.6		
	5 支払利息	26	25	-1	96.2		
	6 その他	59	56	-3	94.9		
	経常費用(B)	804	784	-20	97.5		
経常収支(A)-(B)		-1	-13	-12	1,300.0		
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		99.9	98.3	-1.6	98.4	△	△
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{(a)+(b)+(c)} \times 100$		71.8	74.2	2.4	96.8	△	△
病床利用率		61.8	61.3	-0.5	99.2	△	△

1. 平成23年度 決算の状況(収益的収支:梁瀬医療センター)

(単位:百万円、%)

区分		年度		23年度計画 と決算の差 B-A	23年度計画と 決算の比較 $B \div A \times 100$ (%)	病院組合の 自己評価	委員会 評価
		23年度計画 A	23年度決算 B				
収 入	1 入院収益(a)	330	234	-96	70.9		
	2 外来収益(b)	163	114	-49	69.9		
	3 その他医業収益(c)	19	18	-1	94.7		
	4 他会計負担金	178	287	109	161.2		
	5 国(県)補助金						
	6 その他	1	2	1	200.0		
	経常収益(A)	691	655	-36	94.8		
支 出	1 職員給与費(d)	356	331	-25	93.0		
	2 材料費	80	72	-8	90.0		
	3 経費	129	119	-10	92.2		
	4 減価償却費	53	53	0	100.0		
	5 支払利息	14	13	-1	92.9		
	6 その他	56	61	5	108.9		
	経常費用(B)	688	649	-39	94.3		
経常収支(A)-(B)		3	6	3	200.0		
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		100.4	100.9	0.5	100.5	○	○
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{(a)+(b)+(c)} \times 100$		69.5	90.4	20.9	76.9	×	×
病床利用率		70.0	47.2	-22.8	67.4	×	×

1. 平成23年度 決算の状況(収益的収支:和田山医療センター) (単位:百万円、%)

区分		年度		23年度計画 A	23年度決算 B	23年度計画 と決算の差 B-A	23年度計画と 決算の比較 $B \div A \times 100$ (%)	病院組合の 自己評価	委員会 評価
収 入	1 入院収益(a)	898	900	2	100.2				
	2 外来収益(b)	579	516	-63	89.1				
	3 その他医業収益(c)	65	58	-7	89.2				
	4 他会計負担金	68	65	-3	95.6				
	5 国(県)補助金								
	6 その他	4	5	1	125.0				
	経常収益(A)	1,614	1,544	-70	95.7				
支 出	1 職員給与費(d)	949	868	-81	91.5				
	2 材料費	421	387	-34	91.9				
	3 経費	283	284	1	100.4				
	4 減価償却費	63	68	5	107.9				
	5 支払利息	5	5	0	100.0				
	6 その他	119	171	52	143.7				
	経常費用(B)	1,840	1,783	-57	96.9				
経常収支(A)-(B)		-226	-239	-13	105.8				
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		87.7	86.6	-1.1	98.7	△	△		
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{(a)+(b)+(c)} \times 100$		61.5	58.9	-2.6	104.5	○	○		
病床利用率		74.8	71.8	-3.0	96.0	△	△		

目標達成のための具体的な取組みの進捗状況

説明		23年度計画	23年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
医師確保対策	医師修学資金貸与医学生確保、定着促進	医師修学資金の新たな貸与医学生を確保する。 [募集人員] 各学年3名程度	新たに4名の医学生に貸与を開始し、6学年全体で20名の医学生を確保した。 ※貸与医学生の状況 6年生 2名 5年生 2名 4年生 7名 3年生 3名 2年生 2名 1年生 4名 合計 20名	○	○	
		医師修学資金貸与医学生のうち卒業見込者2名を研修医として豊岡病院で受入れる。	2名全員を研修医として豊岡病院に受入れた。 ※研修医等の状況 専攻医(2年目) 1名 専攻医(1年目) 1名 研修医(2年目) 2名 研修医(1年目) 2名 合計 6名			
	医師のキャリアアップ支援	医師の豊岡病院組合への定着を図るため、医師のキャリアアップへの支援を行う。	医師の学会専門医、認定医取得にかかる経費を助成し、継続して支援する。	平成23年度19件 (平成22年度は17件)	△	△
			医師が所属する学会の年会費を助成し、継続して支援する。 (医師1人につき1学会)	平成23年度57件 (平成22年度は44件)		
医師の業務軽減	医師の労働環境を改善し、豊岡病院組合への定着を図る。	医師事務作業補助者を増員して配置する。	4月に17名から33名に増員し、医師事務作業補助加算1.5対1を取得した。医師からの要望により6月には37名へ更に増員した。 [豊岡病院の救急当直の専任化] 平成22年度から救急当直を専任化して各診療科の医師の負担を軽減しているが、救急医を増員(9名→13名)して救急科医師の負担軽減も図った。	○	○	
業績に対する評価・報奨	業績(診療成績等の類似病院比較、改革プラン比較、過去3年間の平均との比較の11項目のポイント制)を病院毎に評価し、医療備品の購入に使える予算(総額1,300万円程度)を配分し、意欲を高める。	業績評価に伴う報奨制度を継続して実施する。	業績評価報奨制度を継続して実施した。また、病院のニーズに応じて有効に執行できるよう、翌年度の執行を可能とする運用に変更した。 平成23年度報奨額 合計15百万円	○	○	

説 明		23年度計画	23年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
収入 向上 対策	DPCの効率的運用	DPCとは、「診断群分類包括評価」の略で、病気の種類（診断群分類）によって医療費が決まる定額支払い制度（従来は出来高払制）、豊岡病院で実施。	豊岡病院で平成20年7月に導入したDPC入院算定を継続して行う。	DPCによる入院算定を継続 出来高払いと比較した場合の収入増：328百万円 ※平成22年度の効果額：285百万円	○	○
	新たな施設基準の取得	診療報酬上有利となる施設基準を取得し、収益の向上を図る。	新たな施設基準を取得し、収益の確保に努める。	医師事務作業補助体制加算（15対1） 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 埋込型心電図検査、埋込型心電図記録計移植術及び摘出術 効果額：28.6百万円	○	○
	組合外加算の見直し	豊岡市及び朝来市から条例に基づいた経費負担を受けていることから、構成市以外の患者から加算金を徴収することにより、負担の公平化を図る。	平成20年12月に改正した加算料金を継続して徴収する。 [加算料金] ・非紹介患者加算3割加算 ・時間外加算3割加算 ・室料差額加算3割加算 ・分娩介助料加算12千円加算 ※計画：29.5百万円	各加算額に基づいて徴収した。 H23年度：43.3百万円	○	○
	未収金の発生率の抑制及び未収金の回収率の向上	未収金の発生の抑制と回収により、収益を確保する。	未収金の短期回収による発生額の抑制に努める。	「未収金防止・回収マニュアル」により取組みを強化し、1年以上入金滞った焦付未収金の発生額は22年度より35.6%減少した。 [焦付未収金の発生額] 平成21年度 平成22年度 平成23年度 2,140千円 ⇒ 2,352千円 ⇒ 1,539千円	○	○
	有料広告の募集	広告看板等の設置、領収書裏面、HP、広報紙「ほすびたる」への広告掲載等の検討	広報誌とホームページへ広告を掲載する。 効果額：1.3百万円	ホームページへの広告掲載も行っているが、収入が目標額には届いていない。 平成23年度広告収入：0.3百万円	△	△

説明		23年度計画	23年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
医療機能向上対策	病診連携・病病連携の強化促進	必要に応じて、患者を診療所から地域の核となる病院に紹介することにより高度な検査や医療を提供し、快方に向かった患者は元の診療所で診療を継続（逆紹介）するしくみの強化	改革プランに示した年度数値目標を達成する。 [数値目標] 紹介率：49.3% (想定：42.2%) 逆紹介率：27.6%	紹介率：34.8% → 未達成 逆紹介率：30.0% → 達成 逆紹介率は昨年度より上回ったものの、紹介率は昨年度よりも下回り、目標は達成していない。 (H22：紹介42.1%、逆紹介率28.6%)	△	△
	7対1看護の効率的な運営推進	看護職員1名が受け持つ患者を現在の10人から7人とし、手厚い看護を実施する。豊岡病院で実施。	平成23年1月より10対1看護に変更している施設基準について、再度7対1看護に戻すために必要な人員の確保に努める。	新規採用者数が退職者の補充人員確保にとどまっており、7対1看護に必要な看護師の増員が困難な状況である。引き続き県内外の看護学校等への周知を行い、必要な人員の確保に努める。 ※7対1から10対1への変更による収入減の一方、救急科で救命救急入院料等の特定入院料加算を取得している。	△	△
	クリティカルパスの推進	標準化された治療スケジュールを予め患者へ提示することにより、患者や家族の治療への理解が促進される。	継続してクリティカルパスの開発促進に努める。	平成23年度運用パス 116種類 (平成22年度は105種類)	○	○
	連携パスの推進	施設間のクリティカルパスで、現在国により、脳卒中と大腿骨頸部骨折のパスが認定されている。	平成21年度に開発した脳卒中連携パスの活用を継続する。	13件の症例において活用した。	○	○
	病院機能評価の受審とフォローアップ	第三者機関の実施する病院機能評価を受診することにより、病院の弱点を把握し、改善に繋げることができる。(5年毎に実施)	平成23年度は和田山医療センターが更新時期にあたる。	受審にともなう業務量と医師をはじめとしたスタッフの状況を考慮し、平成23年度の更新は見送ることとした。しかし、前回受審時の機能については保っている。	△	△
経費削減対策	競争原理の働くような契約方法等の見直し	従来の慣例に拘らず、契約方法を見直し、経費の削減を図る。	スケールメリットを最大限に活かす5病院の統一契約について、対象の拡大を検討していく。	・看護師ユニフォームの統一：7百万円/年費用削減 ・寝具契約見直し：4.6百万円/年費用削減 ・検査委託契約見直し：10百万円/費用削減 ・病室TV契約の統一：4百万円/年収益増 効果額：25.6百万円	○	○
	診療材料購入の外部委託化の検討・実施	医業費用の3割を占める診療材料の経費を削減するための方法を検討・実施する。	豊岡病院で導入した物流管理の外部委託化を随時他病院にも拡大し、スケールメリットを生かして診療材料費を削減する。 削減効果額：10百万円	平成23年度から出石医療センターの外部委託化を行った。 削減効果額：28百万円	○	○

説明		23年度計画	23年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
経費削減対策	適正な人員配置による委託化・臨職補充	退職者不補充（委託化・臨職化）により、人件費を抑制する。	適正な人員配置による効率化に努める。	直接医療に携わる職種を増員配置し効率化を図った。 医療社会事業士：1名増員（豊） ※事務職員の削減。 平成22年度末7.4名→平成23年度末7.2名 △2名	○	○
	業務委託の推進	効率化できる業務の委託を推進する。	豊岡病院で外部委託化した物流管理業務について、診療材料を基本とした外部委託を他病院でも取り組む。	出石医療センターで診療材料についての物流管理を外部委託化した。 ※平成24年度には残り3病院でも実施	○	○
	後発薬品の使用率の向上促進	先発薬品から後発薬品に切り換えることにより薬品費の削減を図る。特にDPC（包括診療報酬制度）で効果が大きい。	前年度の後発品購入比率以上を目標数値とする。 22年度：6.91%	化学療法の増加により、全体の薬品費が増加する中、23年度の後発品購入比率は5.61%で、22年度と比較して1.3%下回った。	△	△
	適正な給与体系の検討	国、県、構成市との給与等の比較検討を行い、適正な給与体系とする。	人事院勧告に準拠した改正を実施する。	人事院勧告に準拠した引き下げを実施した。 ・給与改定：0.23%引き下げ ・期末手当、勤勉手当は前年度据置	○	○
経営意識向上対策	BSCの推進と情報共有化	BSC（バランスト・スコア・カード）とは、地域・利用者・仕事・人材などの視点から経営戦略を日常業務へ落とし込むことを特徴とした経営ツール	BSC（バランスト・スコア・カード）を推進することにより情報の共有化を図る。	BSC（バランスト・スコア・カード）は未実施である。 ※各病院の看護部では成果指標にBSCの視点を用いた目標管理制度を実施している。	×	×
	全職員での経営改善への取組（ワンコイン作戦）	収入向上対策・経費削減対策に上げられていること以外で、職員のひとり一人が1日500円分の経営改善へ取組、心構えを持って業務に当たる。	経営改善に対する職員の意識の醸成に努め、経費削減に向けた取組を展開していく。	各病院の会議で経営状況を報告し、所属長を通じて各職員への周知を図り、経営意識の向上に努めているが、引き続き十分な周知と経費削減に向けた取組を展開していく。 具体的な取組策：節電、階段利用の啓蒙、裏面コピー等	△	△

説 明		23年度計画	23年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
広 報 及 び 連 携 対 策	ホームページの充実	病院組合の情報戦略の一環として、ホームページの充実を図る。	組合内5病院のホームページの統一的な運用により更なる充実を図る。	平成23年6月から看護師募集サイトを新規で追加し、看護師確保策の一つとして情報発信に取り組んでいる。	○	○
	「ほすびたる」「FMジャングル」等による積極的な情報提供等	病院組合の情報戦略の一環として、各種媒体を利用して市民への情報提供を図る。	広報紙ほすびたるやFMジャングルを活用して、情報提供に努める。	ほすびたるを隔月発行して情報提供に努めた。FMジャングルについてはスポット対応での活用を基本としており、23年度の活用はなかった。	○	○

×：取組が不十分であり、著しく遅れている。

△：取組が不十分であり、やや遅れている。

○：計画を上回って進んでいる。